

令和7年度 第1・2回 合同番組審議会 議事録

1 開催年月日

令和7年9月19日（金） 午前10時～午前11時30分ごろ

2 開催場所

砺波市太郎丸2-129 北日本新聞社砺波支社 会議室

3 委員の出席

委員総数 6名

出席委員数 5名

出席委員の氏名（◎委員長 *欠席）

◎ 山本 仁史 72歳、男、砺波市文化協会長

福原 達 62歳、男、砺波図書館長

境 佐余子 53歳、女、砺波市議会議員

千田 俊介 42歳、男、砺波商工会議所青年部会長

* 久保田 晃克 48歳、男、リアル・プランニング株式会社代表取締役

渡辺 俊一郎 38歳、男、となみ青年会議所理事長
株式会社福光組代表取締役

放送事業者側出席者名

河合 常晴 (株式会社エフエムとなみ 代表取締役社長)

古井 裕人 (株式会社エフエムとなみ 取締役放送局長)

高信 静枝 (株式会社エフエムとなみ 放送部長)

4 議事の概要

社長の挨拶に続き、放送番組についての説明の後協議へ。

その後は、番組編成などについて意見交換を行った。

5 議題

1. 放送番組に対する評価

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

《対象番組》

・「お茶の間トーク」(2025年4月27日(日)放送)

砺波地域で活動する方をゲストに招きお話を伺う1時間のトーク番組。

今回のゲストは、南砺市でDTM教室を主宰する川縁茜さん。2024年に東京から井波へUターンし、自宅で教室を開業した。DTMとは「Desk Top Music」の略で、パソコンを使って音楽制作を行う手法のこと。東京での活動や、井波に戻ったきっかけ、今後の展望などについて話を聞いた。川縁さんが手掛けた曲も紹介している。

(聞き手：井上大祐)

・北陸ワクワク探求室」(2025年6月28日(土)放送)

今年4月にスタートした新番組。「毎日がちょっとだけ楽しくなるイベントやお仕事のお役立ち情報をお届け」をコンセプトに、北陸のイベント紹介やAIを使ったコーナーで構成している。

市民パーソナリティーの松下智弘さんは、東京のITコンサル企業に所属し、砺波の自宅でフルリモートで働いている。ベトナムへの出張も多いことから、ベトナム事情のコーナーや、AI音声を使ったコーナー、ChatGPTやGemini等を使ったコーナーにもチャレンジしている。

また、番組の内容や音源は松下さんのサイト「note えいる 職業改善アドバイザー」でも紹介している。

(市民パーソナリティー：松下智弘)

2. 番組編成に対するアドバイス

3. その他

6 審議内容(各委員の発言を要約して箇条書きで記載)

【福原副委員長】

・「お茶の間トーク」について

DTMというものを全く知らなかったのが興味がわいた。聞き手が順序立てて引き出していたので分かりやすかった。途中で川縁さんの生徒の作った曲がかかったが、2年でここまで作れるのかとイメージが湧いてよかった。

番組中にかかった曲の説明があればよかった。

聞き手、ゲストともに、話し方、声のトーンなど聞きやすかった。

聞き手の表現に、二重敬語になっていたところがあり気になった。

・「北陸ワクワク探求室」について

番組のなかで「AIとうまく付き合っていく」というくだりがあったが、いろいろな場面でAIが出てくるようになり、AIの要素を探る作業まで必要な場面もある。もっともらしい答えを出してくるAIの危険性も紹介されていてよかった。「たのもしく、やっかいな仲間AI」

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

とどう付き合っていくか考えさせられた。

いくつかのコーナーがあったが、コーナー名を付けた方が分かりやすいのではないかな。

AI音声との掛け合いは、相手が機械だけに硬さが感じられた。

ベトナムのコーナーでは、体験したことを色、食感など上手にイメージを湧かせていたのではないかな。

「曲に入りたいかなと思います」の「かな」という表現が少し気になった。

【境委員】

・「お茶の間トーク」について

1時間の番組のなかで、曲もありバランスはよかった。

2曲ほど選曲理由がなかった曲があり、紹介してほしかった。

DTMという耳慣れない分野を、細かく紹介していて幅広い世代に伝わったのではないかなと思う。一方で、知っている人にとっては回りくどいのかも感じた。そのあたりのバランスが難しい。

川縁さんのように、若くて、一所懸命な方がいることが知れてよかった。

・「北陸ワクワク探求室」について

考えさせられる内容だったので、文字でも分かればよかったと感じた。

運転しながら聞いていたが、思わず聞きこんでしまった。後から聞ける方法もあればいいと思った。

AI音声については、パーソナリティが際立たせられればよかったと感じた。

・その他

番組のアーカイブ配信も考えてほしい。

【千田委員】

・「お茶の間トーク」について

1時間という長い番組だが、バランスよく聞きやすかった。

自分もDTMに挑戦したことがある。番組では専門用語を使わず、初心者向けに話していたのに好感が持てた。川縁さんの生徒の作った曲が紹介されたのもよかった。

東京からUターンした方ということで、リモートを使って都会じゃなくてもできる仕事も増え、ストレスの少ない地方へ来てもらうチャンスとも捉えられる。地元に戻ってきてくれる人が増えればよかったと感じた。

・「北陸ワクワク探求室」について

4月にスタートしたばかりの番組ということで、多少たどたどしさも感じたが、これから変わっていくのではと思った。

AI音声はやはり機械音声なので淡々とした感じに聞こえるが、時代を先取りした取り組み

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

だなと感じた。

番組タイトルから、北陸のワクワクすることを紹介するのがコンセプトだと思うが、そこをもう少し強調した作りにした方がいいのではないか。

【渡辺委員】

- ・「お茶の間トーク」について
聞き手、ゲストともに聞きやすい喋り方だった。
DTMよりも、Uターンした方ということ、その働き方に興味が湧いた。地域で頑張っている人を取り上げるのはよい。
- ・「北陸ワクワク探求室」について
全体としての流れ、AIを使った取り組みも面白いと思った。
AIが常に正しいわけではない、自分の色で使って、AIと一緒に成長していけるのではないか。
AI音声聞いたことで、逆にパーソナリティー、人が喋ることが大事なのだなと感じた。
- ・その他
サブスクリプションなどで、いつでもどこでも聞きたい曲が簡単に聞ける環境になった。ラジオでかける音楽の意味とは何だろうかと考えてしまった。昔のように、ラジオでしか聞けない、ということもない。コミュニティエフエムならばなおさら、選曲の意味がほしいと感じた。

【山本委員長】

- ・「お茶の間トーク」について
DTMについての番組を72歳の自分がどう感じるのかと思いながら聞いたが、振り返ってみれば自分たちはYMO世代。坂本龍一の世界を知っている。当時は高価な機器を使って、誰でもできるものではなかった。50年経つと誰でもそここの曲が作れる世の中になった。曲作りのハードルが下がったのか、プロとアマの境界は、など考えてしまった。独自性を出していくのが大切なのだろうと感じた。
DTMの世界に、FMとなみとして取り組めることは何かあるのかと考えた。
- ・「北陸ワクワク探求室」について
AIを使った情報を紹介するコーナーと、ベトナムで自分で見て感じたことを紹介するコーナー、その対比は意図していた物なのか。
AI音声は、言いよんだり、噛んだりといった間違いがない。しかし、それが人間らしさなのかもしれない。AIの危険性も指摘されるが、受け止める人間の問題ではないか。AIとの付き合い方を紹介する番組があってもいいかもしれない。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

- ・その他

番組のバックナンバーを放送する再放送枠はどうか。その時に聞きたいものと、いつ聞いてもよいものとあるのではないか。

【久保田委員・書面】

- ・「お茶の間トーク」について

約 1 時間の長い番組だったが、途中途中で音楽があったので不快感がなく最後まで聞くことができた。話の構成や流れもしっかりしている。

DTMという言葉は初めて聞いたが、わかりやすい説明と会話のやり取りでDTMがよく理解できた。また、最初は遠い距離感を感じていたが井波の話の際に富山弁で話されていたので親近感が湧いた。

川縁さんの人となりがよく伝わった。

- ・「北陸ワクワク探求室」

パーソナリティーとAIのやり取りが斬新で面白かった。今後も是非取り入れていただき、また聞きたいと思った。

松下さんの幅広い知識の底が見えない。北陸にとどまらず海外の情報も発信しておられたのでワクワクしながら聞くことができた。その一方で砺波の話題もしっかり入れられていたのがよかった。

声のトーンもよく言葉も聞き取りやすかった。

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

- ・「お茶の間トーク」

曲紹介の際に、選曲の理由などを紹介するよう指示した（令和7年9月22日）

敬語の使い方に気を付けるよう指示した（令和7年9月22日）

- ・「北陸ワクワク探求室」

コーナー名を付けることを検討した（令和7年9月22日）

8 審議機関の答申又は意見の概要の公表

令和7年9月20日付北日本新聞朝刊に記事を掲載。

FMとなみのHP上でも議事録を公開。

以上

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------